

【資料編】

資料 1	諮問書	1
資料 2	五條市学校適正化検討委員会条例	2
資料 3	委員名簿	3
資料 4	審議経過	4
資料 5	五條市立小学校・中学校の児童生徒数の推移	6
資料 6	先進地視察報告一覧表	7
資料 7	保護者アンケート調査報告書（抜粋）	9
資料 8	教職員アンケート調査報告書（抜粋）	14

五教第 126 号
平成 26 年 5 月 30 日

五條市学校適正化検討委員会

委員長 小柳 和喜雄 様

五條市教育委員会

諮問書

五條市学校適正化検討委員会条例第 2 条により、下記の事項について諮問します。

諮問事項

- (1) 五條市立小・中学校の規模の適正化に関する事項
- (2) 五條市立小・中学校の配置の適正化に関する事項
- (3) 五條市立小・中学校の教育内容の適正化に関する事項

○ 五條市学校適正化検討委員会条例

平成 26 年 3 月 25 日
五條市条例第 10 号

(設置)

第 1 条 五條市立小、中学校(以下「学校」という。)の教育内容及び学校規模、配置、通学区域等の適正化について調査検討するため、五條市学校適正化検討委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事項)

第 2 条 委員会は、五條市教育委員会(以下「教育委員会」という。)の諮問に応じ、学校の教育内容及び学校規模、配置、通学区域等の適正化に関し調査検討し答申するほか、自ら教育委員会に建議することができる。

(組織)

第 3 条 委員会は、委員 20 人以内をもって組織し、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 学校の保護者を代表する者
- (3) 自治会を代表する者
- (4) 市議会を代表する者
- (5) 学校を代表する者
- (6) その他教育委員会が必要と認める者

(任期)

第 4 条 委員の任期は、2 年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とし、役職をもって委嘱された委員の任期は、その在任期間とする。

2 委員は再任されることができる。

(委員長等)

第 5 条 委員会に委員長及び副委員長各 1 人を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選によりこれを定める。

3 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第 6 条 委員会は、委員長が招集し、会議の議長となる。

2 委員会の会議は、委員の過半数以上の出席をもって成立する。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数の場合は委員長の決するところによる。

(部会)

第 7 条 委員会に、必要があるときは部会を置くことができる。

2 部会に属すべき委員は、委員長が委嘱する。

(庶務)

第 8 条 委員会の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

(委任)

第 9 条 この条例に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は教育委員会が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

五條市学校適正化検討委員会委員名簿

資料3

任期:平成26年5月30日～平成28年3月31日

(敬称略)

区分	氏名	所属等	備考
学識経験を有する者	◎小柳 和喜雄	奈良教育大学教職大学院教授 (前)懇話会座長	
	□重松 敬一	奈良教育大学名誉教授	
	◇元根 朋美	帝塚山大学現代生活学部准教授	
	田中 郁子	柿の葉すし本舗たなか会長 奈良経済同友会副代表幹事	
幼稚園・保育所・学校の 保護者を代表する者	吉田 全完	五條市公立保育所保護者連合会会長	H26.5.30～ H27.4.29
	石井 智之	五條市公立保育所保護者連合会会長	H27.4.30～
	巽 寿美	五條市公立幼稚園PTA会長	H26.5.30～ H27.4.29
	吉田 淳	五條市公立幼稚園PTA会長	H27.4.30～
	水本 綾	五條市PTA連絡協議会会長	H26.5.30～ H27.4.29
	中辻 弘史	五條市PTA連絡協議会会長	H27.4.30～
地域住民組織の代表者	谷向 秀喜	五條市自治会連合会会長	
市議会を代表する者	益田 吉博	五條市議会議員	H26.5.30～ H26.12.16
	窪 佳秀	五條市議会議員	H26.12.17～
	吉田 雅範	五條市議会議員	H26.5.30～ H26.12.16
	吉田 正	五條市議会議員	H26.12.17～
学校を代表する者	松森 まり子	五條市公立保育所長会会長 (北宇智保育所所長)	H26.5.30～ H27.3.31
	坂田 礼子	五條市公立保育所長会会長 (牧野保育所所長)	H27.4.1～
	堂本 操	五條市幼稚園長会会長 (五條幼稚園園長)	
	元谷 洋子	五條市小学校長会会長 (阿太小学校校長)	H26.5.30～ H27.3.31
	上東 豊	五條市小学校長会会長 (宇智小学校校長)	H27.4.1～
	○土田 博敏	五條市中学校長会会長 (五條中学校校長)	
その他教育委員会が 必要と認める者	飯田 明子	社会福祉法人正和会理事長	
	辻本 英夫	奈良県立奈良東養護学校教頭	
	橋本 重夫	(前)懇話会委員	
	大森 圭祥	社会福祉法人智辯会ちべん保育園理事長	
	谷口 幸雄	あんしん福祉部部长	H26.5.30～ H27.3.31
	河村 康友	あんしん福祉部部长	H27.4.1～

◎:委員長 ○:副委員長 □:学校規模・配置適正化検討部会長 ◇:教育内容検討部会長

平成 26 年度 五條市学校適正化検討委員会（委員会）

会議	開催年月日	審議内容等
第 1 回	平成 26 年 5 月 30 日	<ul style="list-style-type: none"> ○委員委嘱 ○委員長、副委員長選出 ○諮問 ○五條市の小中学校の現状について ○平成 26 年度 年間計画について ○部会の設置について ○保護者対象アンケート（案）について
アンケート調査	平成 26 年 7 月 1 日～ 平成 26 年 7 月 11 日	○これからの学校教育についてのアンケート調査の実施 （保護者対象アンケート）
視 察	平成 26 年 8 月 7 日	<ul style="list-style-type: none"> ・宇治市教育委員会 ・宇治黄檗学園への先進地視察の実施
第 2 回	平成 26 年 10 月 6 日	<ul style="list-style-type: none"> ○部会報告 ○保護者アンケート結果の考察 ○研修（小柳委員長より） 「アンケート結果の総評と今後の方向性について」
第 3 回	平成 27 年 2 月 19 日	<ul style="list-style-type: none"> ○部会のまとめの報告 ○五條市教育委員会教育長へ中間答申を提出

平成 26 年度 五條市学校適正化検討委員会（部会）

（Ⅰ部会 学校規模・配置適正化検討部会／Ⅱ部会 教育内容検討部会）

会議	開催年月日	審議内容等
第 1 回 合同部会	平成 26 年 6 月 20 日	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者アンケートの実施について ○保護者アンケートの内容について ○平成 26 年度 年間計画について
第 2 回 合同部会	平成 26 年 8 月 27 日	<ul style="list-style-type: none"> ○先進地視察の報告 ○保護者アンケートの結果について
第 3 回 Ⅰ部会	平成 26 年 11 月 10 日	○これからの五條市の学校規模・学校配置について
第 3 回 Ⅱ部会	平成 26 年 11 月 10 日	○これからの五條市の教育内容について
第 4 回 Ⅰ部会	平成 27 年 1 月 19 日	○学校規模・配置適正化検討部会のまとめについて
第 4 回 Ⅱ部会	平成 27 年 1 月 19 日	○教育内容検討部会のまとめについて

平成27年度 五條市学校適正化検討委員会（委員会）

会議	開催年月日	審議内容等
第 1 回	平成 27 年 4 月 30 日	<ul style="list-style-type: none"> ○開会行事 ○これまでの経過報告 ○平成 27 年度 年間計画について ○中間答申についての意見交換
アンケート調査	平成 27 年 5 月 18 日～ 平成 27 年 5 月 27 日	○五條市の学校教育に関するアンケート調査の実施 (教職員対象アンケート)
五條市教育フォーラム	平成 27 年 5 月 20 日	<ul style="list-style-type: none"> ○文科省講話 ○子どもたちの意見発表 ○シンポジウム
第 2 回	平成 27 年 7 月 30 日	<ul style="list-style-type: none"> ○教育フォーラムについて報告 ○教職員対象アンケート結果の分析及び中間答申についての意見交換
先進地視察	平成 27 年 8 月 18 日	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良市教育委員会 ・京都市教育委員会 ・京都市立東山泉小中学校
第 3 回	平成 27 年 10 月 5 日	<ul style="list-style-type: none"> ○先進地視察の報告 ○これまでの審議内容と今後に向けての意見交換
第 4 回	平成 28 年 1 月 8 日	<ul style="list-style-type: none"> ○事務局視察の報告 ○最終答申（素案）についての意見交換
第 5 回	平成 28 年 2 月 18 日	○五條市教育委員会教育長へ答申を提出

資料5

五條市の児童生徒数予測（H32年度まで）

平成26年5月1日現在

小学校	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	H26入学	H25入学	H24入学	H23入学	H22入学	H21入学	年度別 学校規模（児童数 合計）						
	H32入学	H31入学	H30入学	H29入学	H28入学	H27入学	1年	2年	3年	4年	5年	6年	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
A	39	31	48	38	46	37	22	26	31	23	36	39	177	175	185	200	217	222	239
B	48	56	54	48	80	80	77	74	71	92	98	83	495	492	474	430	413	395	366
C	16	21	19	20	17	16	26	26	22	20	33	33	160	143	127	127	124	119	109
D	3	6	5	3	4	8	4	6	8	10	9	19	56	45	40	33	30	30	29
E	21	20	32	22	22	30	23	19	24	24	34	35	159	154	142	140	148	149	147
F	16	25	21	18	21	21	23	26	16	23	30	35	153	139	130	125	130	129	122
G	9	14	7	12	7	7	9	12	15	10	13	16	75	66	60	62	54	56	56
H	12	14	10	12	10	9	13	14	9	16	16	18	86	77	71	67	68	68	67
計	164	187	196	173	207	208	197	203	196	218	269	278	1,361	1,291	1,229	1,184	1,184	1,168	1,135

中学校							H26入学	H25入学	H24入学	年度別 学校規模（生徒数 合計）									
	H32入学	H31入学	H30入学	H29入学	H28入学	H27入学	1年	2年	3年				H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
I	31	38	46	33	49	55	52	63	51				166	170	156	137	128	117	115
J	53	51	54	54	76	87	77	89	91				257	253	240	217	184	159	158
K	23	26	16	23	30	35	19	34	46				99	88	84	88	69	65	65
L	77	74	71	92	98	83	81	80	79				240	244	262	273	261	237	222
M	13	14	9	16	16	18	14	19	13				46	51	48	50	41	39	36
計	197	203	196	218	269	278	243	285	280				808	806	790	765	683	617	596

視察報告一覧表

H26.8月 宇治黄檗学園

H27.8月

京都市立東山泉小中学校

○市の概要

	人口(H27.3月現在)	面積	学校数		児童生徒数 (H27.5.1現在)	
五條市	31,814人	292.02 km ²	(小) 8校	(中) 5校	(小) 1,275人	(中) 773人
宇治市	187,249人	67.54 km ²	(小) 22校	(中) 10校	(小) 10,493人	(中) 5,530人
東山区	39,150人	7.48 km ²	(小) 8校	(中) 4校	(小) 1,061人	(中) 522人

○視察報告 (小中一貫教育)

	宇治市・宇治黄檗学園 (H26年度委員会視察) <4-3-2制>	京都市・京都市立東山泉小中学校 (H27年度委員会視察) <5-4制>
導入理由	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒数の減少と不均衡、分散進学等の課題。 学力、生徒指導上の課題。(京都府(基礎)学力診断テスト及び全国学力・学習状況調査結果の同一児童生徒集団で見た場合、低下状況にある。生徒指導件数の小6→中1間での増加)。 	<ul style="list-style-type: none"> 小→中への学校生活の変化になじめないことが、子どもたちの学習や学校生活に否定的な影響を与えるという課題、いわゆる「中1ギャップ」の解消。 子どもたちの心身発達の早期化に対応し、児童生徒の個々の能力を十分に引き出す点で非常に効果的である。
経緯	<p>H9 小規模校問題等検討会(地域、市議会議員の声を受けて発足)</p> <p>H17 学校規模適正化検討懇話会答申(小中一貫教育をスタンスとする学校規模の適正化と適正配置を進める必要がある。)</p> <p>H24 全ての中学校ブロックで小中一貫教育を実施(一体型1、分離型9) 宇治黄檗学園 開校</p>	<p>H16 構造改革特区「京都市小中一貫教育特区」認定</p> <p>H20 小中一貫教育(推進)校を指定し、全行政区へ取組を展開</p> <p>H23 全ての中学校ブロックで小中一貫教育を実施</p> <p>H26 京都市立東山泉小中学校 開校(3小PTA総会で「小中一貫校の新設、学校統合の実現」を決議。学校統合協議会を設置し開校へ。)</p> <p>現在 73中学校区で実施(一体型4、併用型2、連携型64、その他3)</p>
概要と特色	<ul style="list-style-type: none"> 小中一貫教育コーディネーターの配置 シラバスの公開 職員会議、研修会は小中合同で実施(黄檗学園) ・6年生の中学校体験授業 小学校高学年における教科担当制 「家庭学習の手引き」の活用 宇治学中期共同学習(5~7年生で縦割りに分かれて行う発表会) 	<ul style="list-style-type: none"> 京都市学習支援プログラム(ジョイントプログラムと学習支援プログラム) 開かれた学校づくり=学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の設置 5年生からの教科担任制 「東山泉・学びのスタンダード」 シラバス「学びのみちしるべ」
成果	<p>○明らかな成果は今の段階では言えない途上段階であるが、意識調査では①学校の意識が変わってきている。②保護者は高く期待していることが伺える。</p> <p>○児童生徒アンケートでは「授業が楽しく分かりやすい」が向上している。「学校のきまりを守っている」では規範意識の高さが中学校でも継続されている。</p>	<p>○地域と教職員の意識改革(地域で子どもを育て、学力向上を図る)</p> <p>○小学校同士の連携 ○学力向上・学力情報の共有 ○不登校生徒の減少</p> <p>○6年生に見られる効果として「学校が楽しい」「授業がわかる」の数値が伸びた。(東山泉)</p>
今後の課題(展望)	<ul style="list-style-type: none"> 今後、地域や保護者へ見える形で情報発信をしていく。まだまだ見えていない部分がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 開かれた学校づくりの視点から、小中一貫による学校評価の実施。 小中一貫による学校運営協議会の設置。

○市の概要

	人口(H27.3月現在)	面積	学校数		児童生徒数 (H27.5.1現在)	
五條市	31,814人	292.02 km ²	(小) 8校	(中) 5校	(小) 1,275人	(中) 773人
呉市	234,613人	353.7 km ²	(小) 39校	(中) 26校	(小) 10,754人	(中) 5,494人
府中市	41,696人	195.71 km ²	(小) 8校	(中) 4校	(小) 1,941人	(中) 1,042人

H27.10.20/21
事務局視察
(広島県呉市・府中市)

○視察報告 (小中一貫教育)

	呉市 (事務局視察：小中一貫教育を初めて導入) <4-3-2制>	府中市 (事務局視察：五條市と似た規模、地形) <6-3制>
導入理由	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒アンケートにより中1ギャップの問題が明らかになる。 →問題解決のため、「自尊感情の育成」と「中1ギャップの解消」を目的とした小中一貫教育の導入を決定。(教育委員会が主導。) 	<ul style="list-style-type: none"> 中学1年生で不登校生徒が急激に増えるという課題がある。 広島県実施の“「基礎・基本」定着状況調査”において、小学生は県平均を上回るが、中学生は県平均を下回るという学力の課題が見られた。
経緯	<p>H12 研究開発学校指定 H16 中央教育審議会へ報告 H19 全ての中学校区で小中一貫教育を実施 現在 26中学校区で実施 (一体型4校、分離型22校)</p>	<p>H15 J T府中工場の跡地活用の問題と、学校施設の老朽化問題が生じていたことが重なり、小中一貫校の建設が決定 H16 小中一貫教育の在り方を4年間の試行期間で模索 H20 全市で小中一貫教育を実施 (4つの学園各々で立地環境が異なる。) ①一体型 ②連携型(分離型) ③併用型(隣接型/分離型)</p>
概要と特色	<ul style="list-style-type: none"> 小中一貫教育推進コーディネーターの配置 小中一貫教育推進加配講師措置 呉型カリキュラムの作成 「小中一貫教育研究事業」2年間の研究指定と、2年目には研究公開。 4-3-2制の理由は、「心身の発達、生徒指導上の課題、学力形成上の特質」から、望ましい学年区分と考えた。・中→小への乗り入れ授業 	<ul style="list-style-type: none"> 「府中市小中一貫教育推進プラン プラス5プログラム」の作成。 府中市小中一貫教育カリキュラムの作成 「府中市小中一貫教育推進会議」を年2回開催 「小中一貫教育研究大会」を毎年開催 5年生からの教科担任制 H25年度から10年間の「府中学びプラン」を策定
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導上の諸問題の改善 (中1 H19→H26の推移) 暴力行為の減少 (40件→6件) いじめ認知件数の減少 (31件→23件) ○学力の向上。全国学力・学習状況調査や広島県実施の“「基礎・基本」定着状況調査”では、全国や県の平均値よりも上回っている。 ○自尊感情の向上。(自己肯定感、将来の夢や目標の数値が向上。) 	<ul style="list-style-type: none"> ○中学1年生からの不登校生徒数の減少 小中学校全体でも、H16約60人→H25約20人へと減少 ○全国学力・学習状況調査や広島県実施の“「基礎・基本」定着状況調査”でも市の平均値は、全国や県の平均値よりも上回っている。 ○自尊感情、自己効力感、社会性などは経年的に改善傾向である。
今後の課題・展望	<ul style="list-style-type: none"> ・乗り入れ授業等を円滑に進めるための人的措置が必要。 ・呉型カリキュラムの実践・検証 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティスクール (学校運営協議会制度) を推進。

保護者アンケート調査報告書（抜粋）

資料 7

1. 調査の目的

本調査は、五條市学校適正化検討委員会において、本市における子どもたちにとっての“好ましい教育環境”の実現に向けての審議を進めるにあたって、市内の幼稚園・保育所（園）・小学校・中学校に在籍する子どもがいる保護者の方からアンケートにより意見を集め、検討委員会の参考とすることを目的とする。

2. 調査概要

調査概要は下表の通りである。

(1) 調査対象	市内の幼稚園・保育所（園）・小学校・中学校に在籍する子どもがいる世帯の保護者
(2) 実施期間	平成26年7月1日（火）～7月11日（金）
(3) 調査方法	五條市教育委員会から各学校（所・園）を通じて配布・回収 ※ただし1世帯に複数の子どもがいる場合は1世帯につき1票の回答とした。
(4) 配布数	2,405票（1,852世帯を対象）

3. 回収状況

アンケート調査の回収状況は下表の通りである。

配布票	対象者数	回収票（回収率）	有効回収票（有効回収率）
2,405	1,852	1,561 (84.3%)	1,555 (84.0%)

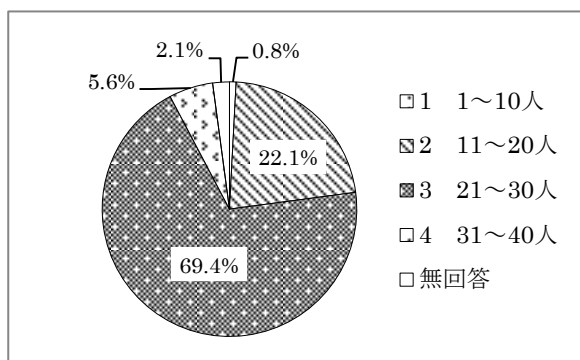
※白票6票については無効票とした。

4. 調査内容

調査内容は、以下の通りである。

(1) 回答者（保護者）の属性について 問1 性別について 問2 年齢について 問3 小学校区について 問4 子どもの人数について
(2) 望ましい学級規模・学年規模について 問5 小学校の学級人数について 問6 小学校の学級数について 問7 中学校のクラス人数について 問8 中学校のクラス数について
(3) 児童生徒にとって望ましい通学時間・通学方法について 問9 小・中学生の通学時間について 問10 小・中学生の通学方法について
(4) これからの五條市の学校について 問11 学校の位置・通学区域・学校数などの見直しについて 問12 空き教室や空き校舎が出た場合について
(5) 未来の子どもたちのために、五條市に求める教育内容や教育体制について 問13 学校や教育全般に力を入れてほしいもの 問14 小学校教育において、特に力を入れて取り組んでほしいもの 問15 幼・保・小・中と地域の連携について 問16 小・中のつなぎのための、小学校授業に取り入れる内容について 問17 小中一貫教育について 問18 子どもたちにどんな人になってもらいたいのか 問19 その他・五條市に求めるもの（自由記述）

問5の1 小学校1学級あたりの人数についてお尋ねします。あなたは、小学校生活を過ごす子どもたちにとって、1学級あたりの人数は、何人程度がよいと思いますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。[単純回答]

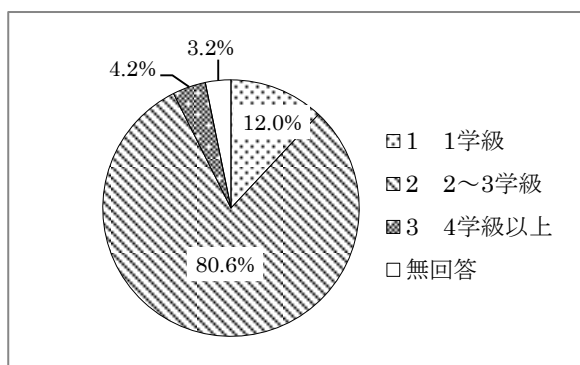


	人数 (人)	割合 (%)
1. 1～10人	13	0.8
2. 11～20人	343	22.1
3. 21～30人	1,079	69.4
4. 31～40人	87	5.6
無回答	33	2.1
合計	1,555	100.0

その他 (自由意見)	人数 (人)	割合 (%)
記入あり	37	2.4

* 「21～30人」が69.4%で最も多い。

問6の1 小学校1学年あたりの学級数についてお尋ねします。あなたは、小学校生活を過ごす子どもたちにとって、1学年あたり何学級がよいと思いますか。次の項目の中から1つに○をつけてください。[単純回答]

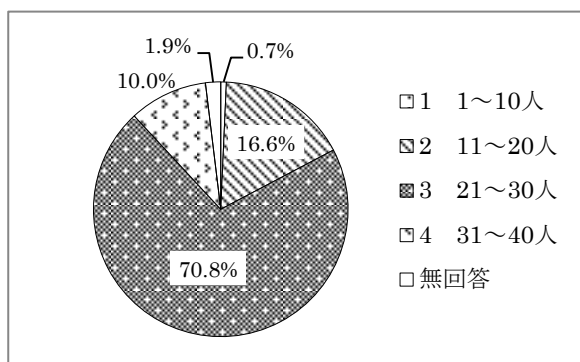


	人数 (人)	割合 (%)
1. 1学級	186	12.0
2. 2～3学級	1,254	80.6
3. 4学級以上	65	4.2
無回答	50	3.2
合計	1,555	100.0

その他 (自由意見)	人数 (人)	割合 (%)
記入あり	59	3.8

* 「2～3学級」が80.6%で最も多い。

問7の1 中学校1クラスあたりの人数についてお尋ねします。あなたは、中学校生活を過ごす生徒たちにとって、1クラスあたりの人数は、何人程度がよいと思いますか。次の項目の中から1つに○をつけてください。[単純回答]



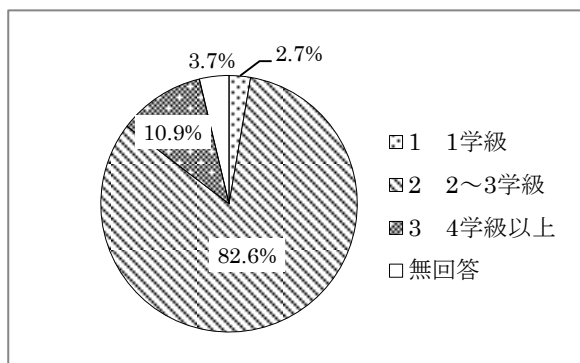
	人数 (人)	割合 (%)
1. 1～10人	11	0.7
2. 11～20人	258	16.6
3. 21～30人	1,101	70.8
4. 31～40人	155	10.0
無回答	30	1.9
合計	1,555	100.0

その他 (自由意見)	人数 (人)	割合 (%)
記入あり	22	1.4

* 「21～30人」が70.8%で最も多い。

問8の1 中学校1学年あたりのクラス数についてお尋ねします。

あなたは、中学校生活を過ごす生徒たちにとって、1学年あたり何クラスがよいと思いますか。次の項目の中から1つに○をつけてください。[単純回答]

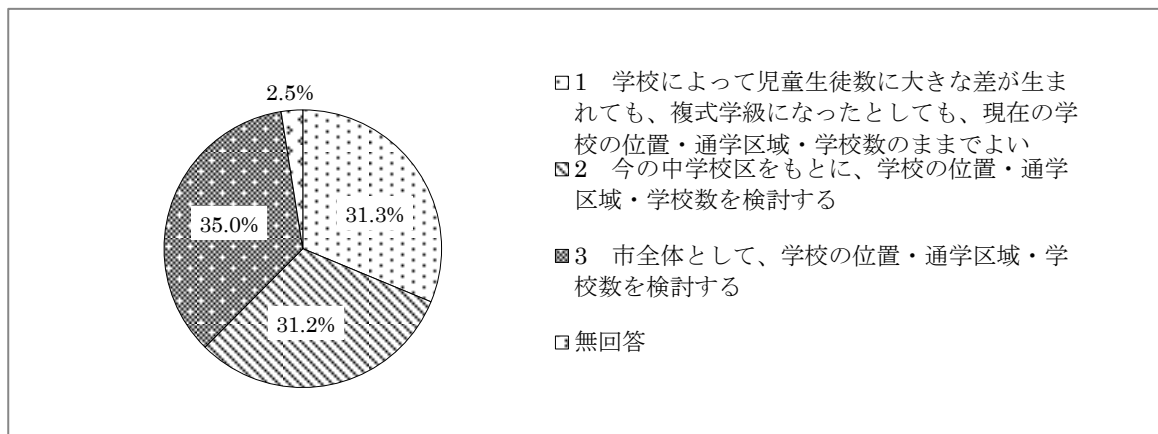


	人数 (人)	割合 (%)
1. 1クラス	42	2.7
2. 2～3クラス	1,285	82.6
3. 4クラス以上	170	10.9
無回答	58	3.7
合計	1,555	100.0

その他 (自由意見)	人数 (人)	割合 (%)
記入あり	34	2.2

* 「2～3クラス」が82.6%で最も多い。

問11 今後、さらに児童生徒数が少なくなることも考えられます。そこで、これからの五條市の学校をどのようにすることがよいと思いますか。次の項目の中から1つに○をつけてください。[単純回答]



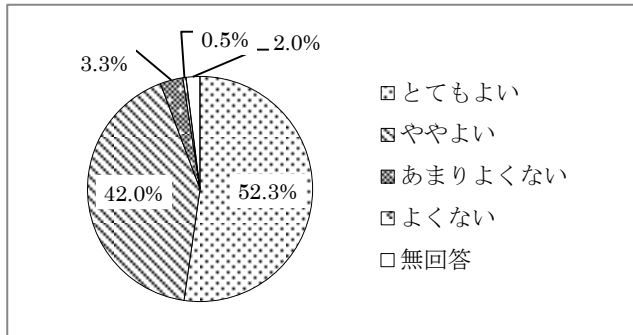
	人数 (人)	割合 (%)
1. 学校によって児童生徒数に大きな差が生まれても、複式学級になったとしても、現在の学校の位置・通学区域・学校数のままでよい	486	31.3
2. 今の中学校区をもとに、学校の位置・通学区域・学校数を検討する	485	31.2
3. 市全体として、学校の位置・通学区域・学校数を検討する	545	35.0
無回答	39	2.5
合計	1,555	100.0

その他 (自由意見)	人数 (人)	割合 (%)
記入あり	55	3.5

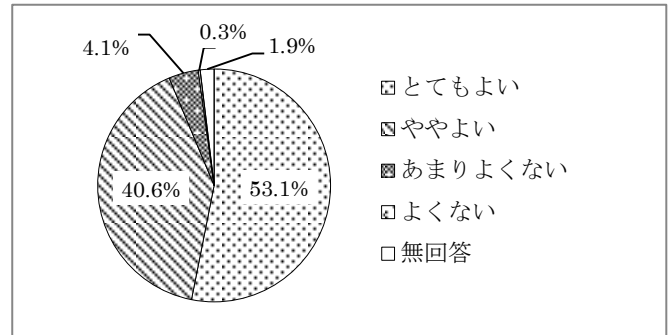
* これからの五條市の学校の位置等の見直しについては、「市全体として、学校の位置・通学区域・学校数を検討する」という回答が最も多いが、他の項目との差はほとんど見られない。

問15 五條市では、幼稚園・保育所（園）・小学校・中学校（以下、幼保小中といいます）と、地域が連携して教育を進めることは大切だと考えています。次の取り組みについて、それぞれの項目に対し、あなたの考えに近い欄に○を付けてください。[単純回答]

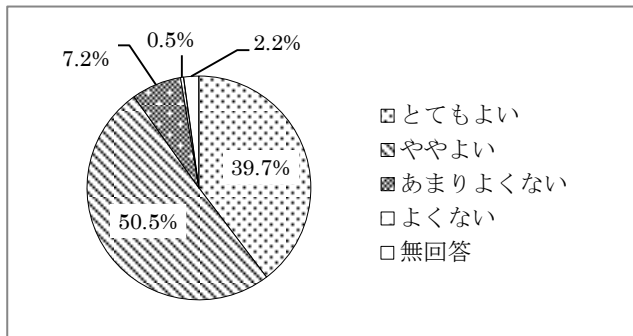
1. 幼保小中が、地域の活動に参加したり、地域に向いた活動を積極的に行う



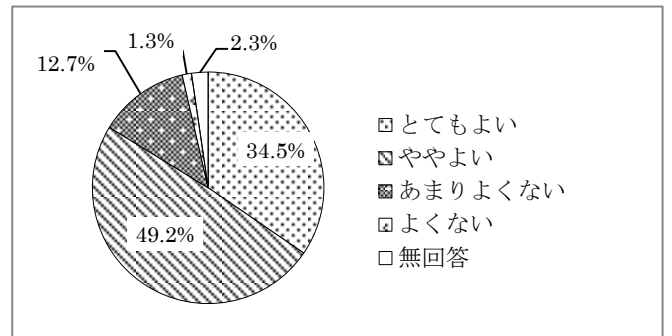
2. 幼保小中が、お互いに関わり合う活動をする



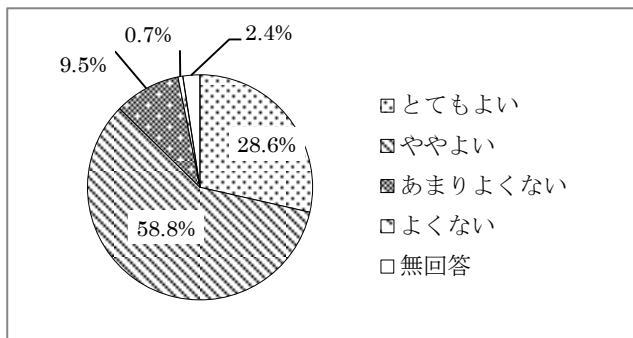
3. 地域の人が幼保小中に入って教育活動に参加しやすい体制をつくる



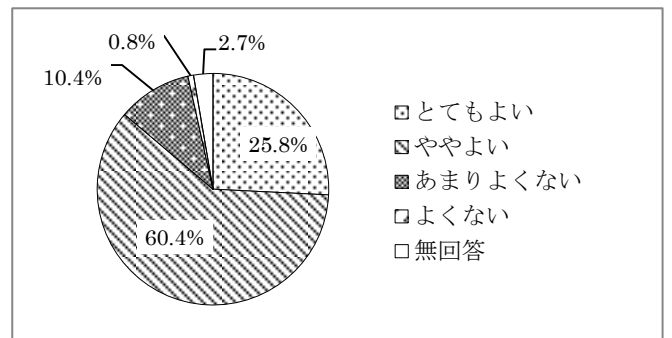
4. 学校（園・所）の活動を、誰もが知ることができるような体制をつくる



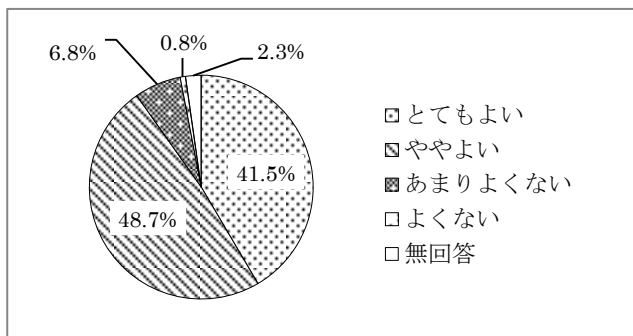
5. 保護者が学校（園・所）と子育て相談や活動出来る機会を積極的に設ける



6. 学校（園・所）の情報を、家庭や地域で共有し、一緒になって考える機会をつくる



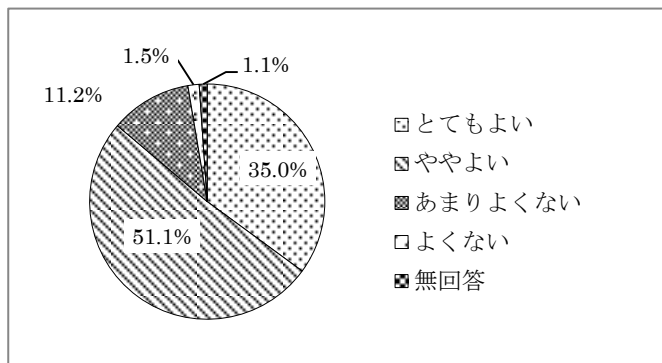
7. 幼保小中の先生が互いの授業を参観し研修する



*学校等と地域との連携した取り組みについては、全ての項目について「ややよい」・「とてもよい」といった回答が多い。

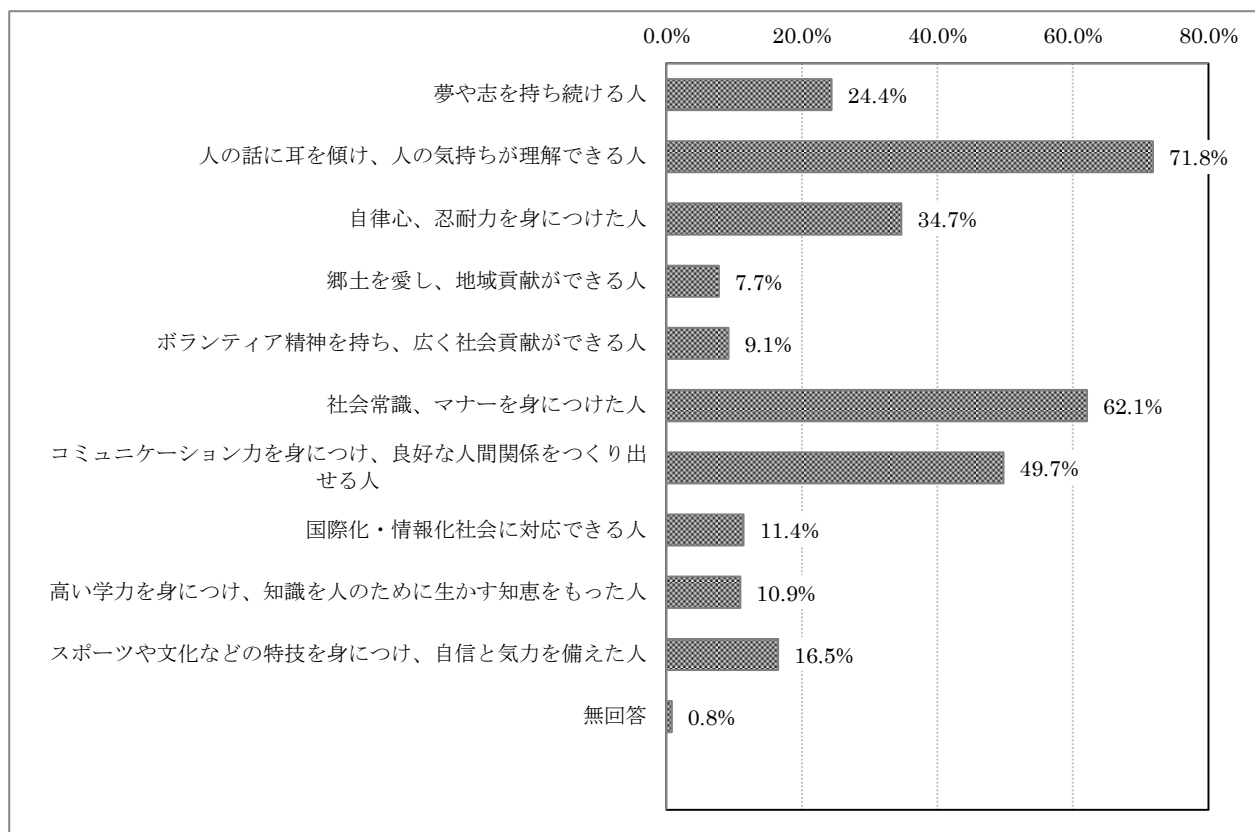
問17 現在、全国的に、小中一貫教育が推進されています。小中一貫教育とは、義務教育の9年間を、連続した期間とらえた教育活動を行うことです。このことについて、あなたの考えに近い欄に○を付けてください。[単純回答]

1. 小学校から中学校へのつながりのある、小中一貫教育



*小中一貫教育については、「ややよい」という回答が最も多い。

問18 五條市の子どもたちに、どんな人になってもらいたいですか。次の項目の中から、3つに○をつけてください。[複数回答]



*五條市の子どもたちにどんな人になってもらいたいかについては、「人の話に耳を傾け、人の気持ちが理解できる人」が71.8%で最も多い。

教職員アンケート調査結果報告書（抜粋）

1 調査目的

本調査は、市立小中学校の教育内容や適正規模及び配置等を検討するにあたり、教職員の意識や意見、望む教育施策などを把握するとともに、「五條市学校適正化検討委員会」における検討のための参考資料とすることを目的に実施した。

2 調査設計

- (1) 調査対象 : 市内の小学校・中学校及び教育委員会事務局に勤務する教職員 251 人
 (2) 調査方法 : 各学校等を通して配布・回収
 (3) 調査期間 : 平成 27 年 5 月 18 日～ 5 月 29 日

3 回収結果

- ・配布数 : 251 件
- ・有効回答数 : 246 件（有効回答率 98.0%）

(件)

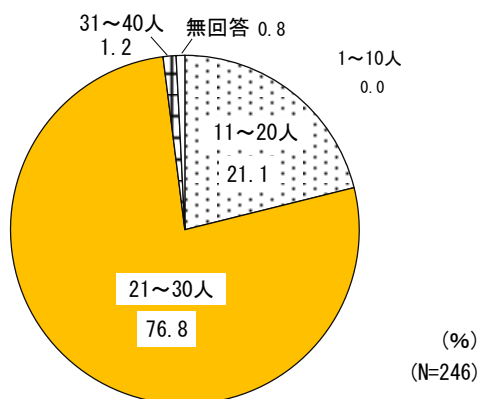
<小学校>								<中学校>					五條市 教育 委員会 事務局
五條	牧野	北宇智	阿太	宇智	野原	阪合部	西吉野	五條	五條東	野原	五條西	西吉野	
20	33	15	16	16	15	15	13	22	23	18	21	14	5

4 報告書の見方

- (1) 図表中のN (Number of case) は、設問に対する回答者数のことである。
 (2) 回答比率 (%) は回答者数 (N) を 100%として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して表示しており、その結果、内訳の合計が計に一致しないことがある。
 (3) 一部、複数の回答がみられた設問について、複数回答扱いとして処理し集計している。よって、回答比率 (%) の計は 100.0%を超える。

問3 小学校1学級あたりの人数についてお尋ねします。望ましい1学級あたりの児童数は、何人程度がよいと思いますか。次の項目の中から1つに○を付けてください。

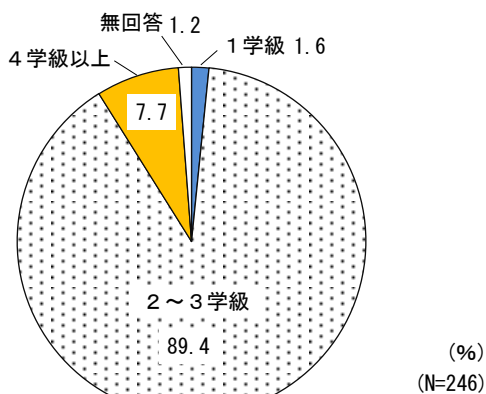
【図表 2-1 小学校1学級あたりの適正児童数】



小学校1学級あたりの望ましい児童数としては、「21~30人」が7割台(76.8%)を占めており、「11~20人」が21.1%、「31~40人」が1.2%となっている。

問5 小学校1学年あたりの学級数についてお尋ねします。望ましい1学年あたりの学級数は何学級がよいと思いますか。次の項目の中から1つに○を付けてください。

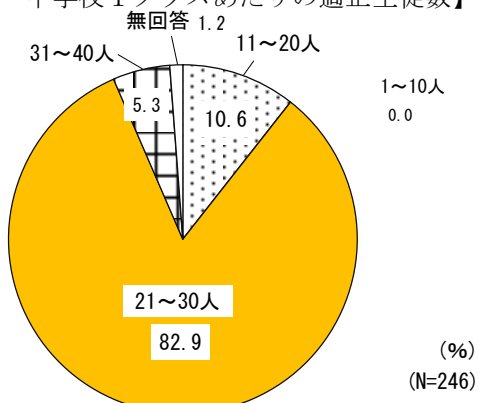
【図表 2-3 小学校1学年あたりの適正学級数】



小学校1学年あたりの望ましい学級数としては、「2~3学級」が約9割(89.4%)を占めており、「4学級以上」は7.7%、「1学級」は1.6%となっている。

問7 中学校1クラスあたりの人数についてお尋ねします。望ましい1学級あたりの生徒数は、何人程度がよいと思いますか。次の項目の中から1つに○を付けてください。

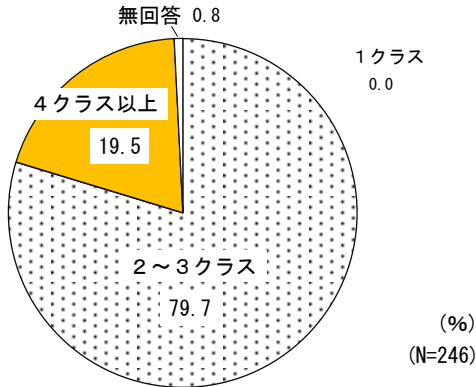
【図表 3-1 中学校1クラスあたりの適正生徒数】



中学校1クラスあたりの適正生徒数としては、「21~30人」が8割強(82.9%)を占めており、「11~20人」が10.6%、「31~40人」が5.3%となっている。

問9 中学校1学年あたりのクラス数についてお尋ねします。望ましい1学年あたりのクラス数は、何クラスがよいと思いますか。次の項目の中から1つに○を付けてください。

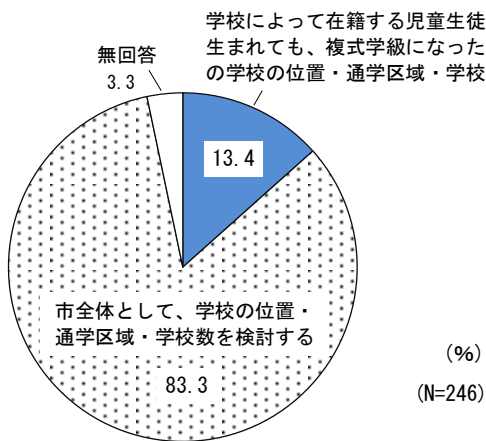
【図表 3-3 中学校1学年あたりの適正クラス数】



中学校1学年あたりの望ましいクラス数としては、「2~3クラス」が約8割（79.7%）を占めており、次いで「4クラス以上」が19.5%となっている。

問11 今後、さらに児童生徒数が少なくなることも考えられます。そこで、これからの五條市の学校をどのようにすることがよいと思いますか。次の項目のア・イの中から1つに○を付けてください。

【図表 4-1 今後児童生徒数の減少を踏まえて五條市の学校でしたほうがよいこと】

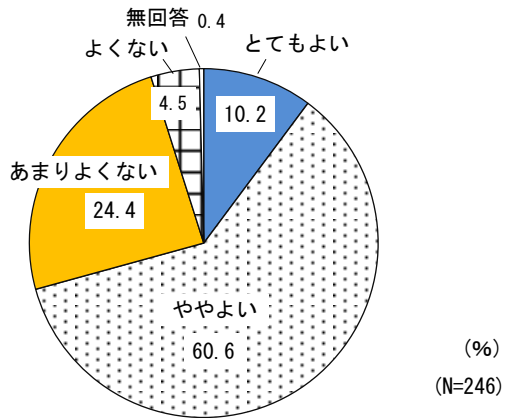


今後、児童生徒数が減少することを踏まえて五條市の学校でどのようにすることがよいと思うかたずねたところ、「市全体として、学校の位置・通学区域・学校数を検討する」が8割台（83.3%）を占めている。

問 20 小中一貫教育についてはその導入・推進に向けて、様々な検討事項（校舎の状況や通学区割り・推進のねらいや方針等・教育課程の編成等・教科担任制や乗り入れ授業・推進体制・学校運営協議会の導入他）が考えられます。

そこで、未来の子どもたちのために、五條市の教育体制として「小中一貫教育」を導入することの是非について、あなたの考えに近い欄に○を付けてください。

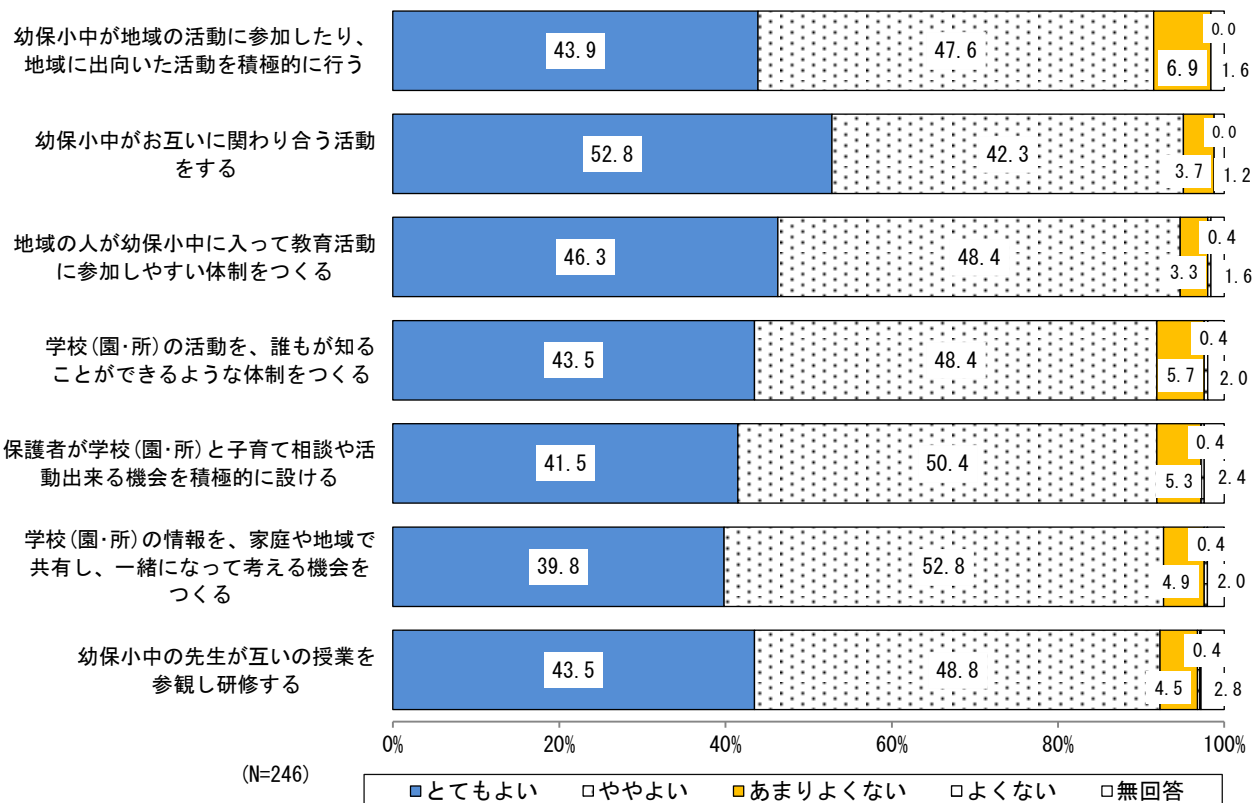
【図表 5-5 五條市の教育体制に小中一貫教育を導入することの是非】



五條市の教育体制として“小中一貫教育”を導入することの是非をたずねたところ、「ややよい」が約6割（60.6%）を占めており、「とてもよい」（10.2%）を合わせると、導入に肯定的な意見の人の割合は全体の約7割（70.8%）となっている。

問 28 五條市では、幼稚園・保育所（園）・小学校・中学校（以下、幼保小中といいます）と、地域が連携して教育を進めることは大切だと考えています。次の取り組みについて、それぞれの項目に対し、あなたの考えに近い欄に○を付けてください。

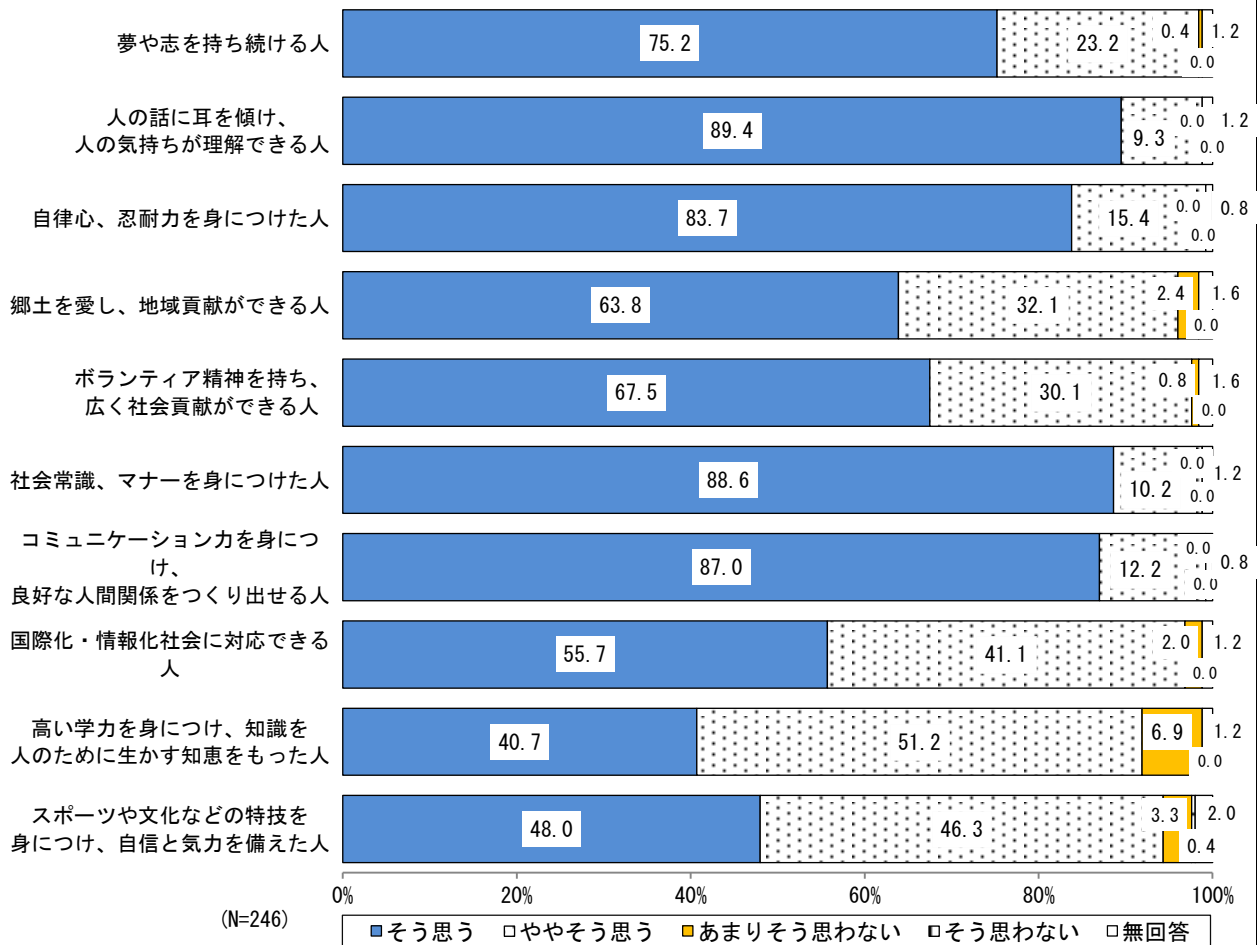
【図表 6-1 幼保小中と地域が連携した教育のための取組についての考え】



幼保小中と地域が連携して教育を進めるための取組として、主な7項目に対する考えをたずねたところ、肯定的な意見の割合（「とてもよい」「ややよい」の計）はいずれも9割台みられ、特に「とてもよい」が『幼保小中がお互いに関わり合う活動をする』で過半数（52.8%）を占め最も高くなっている。

問 30 五條市の子どもたちに、どんな人になってもらいたいですか。
それぞれの項目に対し、あなたの考えに近い欄に○を付けてください。

【図表 6-3 五條市の子どもたちになってもらいたい人物像】



五條市の子どもたちになってもらいたい人物像として、主な10項目についてたずねたところ、「そう思う」が、『人の話に耳を傾け、人の気持ちが理解できる人』で89.4%と最も高く、次いで『社会常識、マナーを身につけた人』で88.6%、『コミュニケーション力を身につけ、良好な人間関係をつくり出せる人』で87.0%、『自律心、忍耐力を身につけた人』で83.7%となっている。